

今年は国際森林年！約 500 名が参加して

富士山で植林活動を実施

—「富士山の森づくり」植栽最終年—

「富士山の森づくり」はオイスカが 2007 年度より山梨県や複数の企業・団体と協働してスタートさせた植林事業です。

国際森林年の本年、これまで同様に多くの企業・団体関係者が参加して植林活動を行います。さらに、オイスカが海外で取り組んできた地域開発などに関係のある 4 カ国の駐日大使を含む 9 カ国・約 60 名の大使館関係者も参加する予定です。

また、「富士山の森づくり」での新たな取り組みとして、6 月 1 日には、株式会社ニコンとオイスカの協働で山梨県甲府市立甲運小学校の児童を対象に、同社のカメラを活用して子どもたちに生物多様性への気付きを促す環境教育と、植林体験を行います。

5 年目を迎える今年は、植栽最終年です。今後 5 年間の計画では、ボランティアなどによる整備・管理や専門家によるモニタリング調査を行っていく予定です。



【予定スケジュール】

5/28(土): オルビス株式会社、株式会社ニコンの社員と関係者が植林

6/1(水): 山梨県甲府市立甲運小学校の児童を対象に環境教育と植林体験を実施

6/4(土): 各国大使館関係者、公益財団法人オイスカの賛助会員と関係者が植林

※「富士山の森づくり」についてはオイスカ HP 内、専用ページへ

→ <http://www.oisca.org/project/japan/fuji.html>

【問い合わせ】

公益財団法人オイスカ 啓発普及部 (〒168-0063 杉並区和泉 2-17-5)

Tel 03-3322-5161 Fax 03-3324-7111 E-mail oisca@oisca.org (担当: 石原・菅原)

HP <http://www.oisca.org/>

<参考資料>

■富士山の森づくりとは

2007 年度から、オイスカが山梨県や複数の企業・団体と協働してスタートさせた森づくり事業で、今年で 5 年目をむかえます。事業地の富士山北麓域は、2004 年から山梨県によるシラベ林虫害対策事業(列状間伐を行い、針広混交樹林への「天然更新」を促す)が進められており、本事業は県の被害対策事業と連携し、列状間伐を行った箇所に広葉樹の植栽を行うことで、天然更新よりも確実にそして早く森林の再生ができるように取り組んでいるものです。

オイスカが県や複数の企業・団体・研究者間の調整役となり「順応的管理」をする事で、まとまった資金と人手により、100ha という広域を、目標・手法を統一したかたちで森づくりを行うことができると考えています。また同時に、大勢の方への意識啓発や、地域の活性化にも寄与することが期待できます。

現在、関係企業・団体、行政など 24 の組織が参加して発会された「富士山の森づくり」推進協議会が中心となり、本事業のさらなる推進と普及に取り組んでいます。

■事業内容

対象地: 山梨県鳴沢村富士山地内県有林(標高約 1,600m、対象面積約 100ha、内植栽面積 40ha)

活動期間: ボランティアによる植栽、下草刈りなどの活動→ 約 10 年間(現在 5 年目)

活動形態: 山梨県、林業関係者、企業・団体等との協働

植林樹種: 富士山自生の広葉樹(ミズナラ、ブナ、カエデ、ヤマハンノキ、ヤマザクラ)

【昨年の植林活動の様子】



シカの食害から苗木を守る白い囲い「ウッドガード」を苗木 1 本 1 本に取りつけます



ご家族で参加してくださる方もたくさんいらっしゃいます